

## 消費者の立場からスーパーのよさを考えてみよう

社会 第3学年

白山市立朝日小学校・教諭

### 1 事例の概要

本校では研究主題『主体的にかかわりあう子の育成』のもと、課題解決学習を中心に据え、自分の考えをしっかりと追及する、子ども主体の授業づくりを進めている。

4月、授業を支える基盤を構築するため、学習環境を整えた。話し方・聞き方・学び方のルールの共有化である。また何でも話し合える雰囲気づくり、信頼関係についても留意していった。

3年社会科では、「身近な地域の事象に進んで関わることで地域に対する見方や考え方を広げ、地域に対する愛情をもつ」ことができるような学習を進めていく必要がある。

そこで1年間の年間計画を緻密に立てながら、教材研究に力を注ぎ、地域に密着した学習を構想し展開していくことにした。親しみをもって教材に接することができた時、子ども達は自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力などの資質や能力を発揮し高めることができると考えたからである。

社会科の導入単元「学校のまわり」では、校区を自分の足で歩き、五感を働かせながら事実と対話し、分かったことをまとめ考えていく学習からスタートさせた。また、3学期単元「くらしを守る」は地域の実情も考慮に入れ、体験や見学、調べ活動ができる1学期に組み入れた。「農家の仕事」では地域の特産を調べ、『月橋のなし名人』との触れ合いから、学習をスタートさせていった。

本事例は、これまでの社会科の学習の基礎を土台としながら、体験を通して調べ、考え、まとめる活動から、地域の店で働いている人々の思いや願いに迫ろうとした実践である。

A-1 学校研究

A-2 「学校のまわり」指導案・活動記録

### 2 実践内容

#### (1) 単元の目標

- ・お店で働く人々の仕事に関心をもち、消費者の願いに合わせて販売の工夫や努力をしていることを考え、自分も消費者の一人であるという意識をもって、見学・調査活動を進めることができる。（\*観点別目標はWEB資料参照）

#### (2) 指導上の工夫

##### ① 教材（地域素材）との出会いの場の工夫

- ・自らの矛盾・驚き・疑問の気づきから、もっと地域の実事と向き合い対話したくなるもの
- ・自分の生活と結びつけたり比較したりしながら、考えたり調べたりできるものであること
- ・地域を学習活動の場と捉え、地域に出向いて主体的に関わり合いながら活動できるもの

##### ② 学習展開の工夫

- ・体験的な活動の充実
- ・多様な学習活動の工夫（話し合い・調べ学習を中心に）
- ・学習をふりかえり、考え表現する場の設定

##### ③ 指導法の工夫

- ・単元全体を貫く学習課題の設定
- ・課題解決に向けての教師の支援

##### ④ 評価の工夫

- ・授業の振り返りを残していく
- ・振り返りの生かし方
- ・多面的に捉えた評価方法



B-1 指導上の工夫

### 3 指導の実際

#### 第一次 買い物調べてわかったこと (3 時限)

- 家の人はどこで何を買っているかな。(1週間の買い物調べ)
  - ・自分の体験を想起する。
- ＜なぜM店(スーパーマーケット)で買い物する家が多いのかな＞
  - ・調べ活動の結果を発表し合う。→全体の結果をグラフや写真で明示
  - ・消費者の立場から理由を考える。
- M店を見学する計画を立てよう。
  - ・ひみつや工夫を見つけるための作戦を、グループごとに立てる。

商店街に住んでいる子どもも多く、近所の店や本屋などで買い物をした経験のある子ども、半分もいた。『では、家の人はどんな買い物をしているかな?』と聞き返すことで、見つめ直そうという意識をもち、調べ活動ができた。また、自分たちとは違う、買い物の仕方や願いについて考え合うことができた。

#### 第二次 スーパーのひみつを調べよう (6 時限)

- M店に見学に行こう。
  - ・自分の立てた作戦で活動する→見る・調べる・聞き取り・メモ等
- ＜M店のひみつや工夫を話し合おう＞
  - ・見学から自分なりにわかったことを発表し合う。
  - ・買った品物やもらったレシートからひみつを探っていく。
- M店のひみつをまとめよう。
  - ・オリジナルひみつ新聞をつくる。

家の人がM店によく行く理由を手がかりに、なぜM店には人が多く集まるのか、そのひみつを探る手立てをグループごとに考えさせた。学習課題を投げ返し、見直し・確認させた結果、目的意識をもって調べ活動を進めることができた。また消費者の目から、買い物体験をさせたことで、品物やレジについても着目し、ひみつを探っていた。

#### 第三次 わたしを選んだお店 (4 時限+ 課外)

- スーパーのほかに、どんなお店があったかな。
  - ・いろいろな店の特徴について確認する。
- 調べてみたい店を選んで取材してこよう。
  - ・その店のこだわりや良さをどんな方法で調べるか計画を立てる。
- 宣伝パンフレットをつくろう。
  - ・お店の特色をわかりやすくまとめていく。
- ＜店長として、わたしを選んだお店を紹介し合おう＞
  - ・買い物に行きたくなるような交流会の場をもつ。

見学・調べ活動や話し合いをもとに、生き生きとスーパーの「ひみつ新聞」を作ることができていた。達成感のある子ども達に『お店はスーパーマーケットだけだったかな?』と問い返すことで、もう1度、身の回りにあるいろいろなお店について思い出させ、確認させた。そのうえで、自分が店長になってみたいお店を1つ選んで取材に行き、みんなに宣伝することで、違う視点から働く人々の願いや工夫に気づくことができた。

C—1 指導案(単元・評価計画も含む)

C—2 活動の足跡

### 4 成果と課題

#### (1) 成果

今年度は1時間1時間の授業の課題を明確に提示し、共に考え学習を進めていくため、全て自作のワークシートを用いて授業を進めていった。その結果、自分自身も児童と一緒に新しい教材に向き合い、授業の中で調べさせたいことは何か、調べたことから考えさせたいことは何か、より明確になった。また、児童にとっても課題に対してのまとめや振り返りが書きやすかったようで、1時間で問題解決ができたという充足感が感じられた。また、課題に対しての考えや調べた結果には必ず目を通し、振り返りを次の授業に生かすことができた。

#### (2) 課題

本実践は、身近な消費者の立場から地域のお店で働いている人々の思いや願いに深く迫ろうと活動計画を立てたが、働いている人の日々の見えない努力や工夫についての学ぶ視点が全体的に弱かったため、子ども達はスーパーの「ひみつ新聞」を客観的な立場からまとめていた。パンフレットづくりでも、主人公である店長が、他店に負けなために日々行っているこだわりやその願いにまで追究できなかった子が多かった。スーパー見学でもう1回、視点を変えて店長さんのしている仕事の調べ活動などを取り入れると、その人が大切にしている願いや生き方まで深められたのかもしれない。

C—3 ワークシート